

2021 年行事予定

- 2月13日(土) 第1回常任幹事会 終了 (Zoom会議)
- 5月21日(金) 第31回日本臨床検査専門
～22日(土) 医会春季大会 終了
- 5月21日(金) 1回全国幹事会、
第58回総会、
生涯教育講演会 終了
- 6月11日(金) 教育セミナー
～26日(土) (WEBセミナー) 終了
- 7月16日(金) 第38回臨床検査振興セミ
ナー (ライブ配信) 終了
- 8月 会長・監事 選挙 終了
- 9月4日(土) 第2回常任幹事会 終了
- 11月～12月 臨床検査の日を中心として
全国検査と健康展
- 11月11日(木) 第68回日本臨床検査医学
～14日(日) 会学術集会(富山)
- 11月11日(木) 第2回全国幹事会、
第59回総会・講演会
- 12月18日(土) 第3回常任幹事会

巻頭言

第68回日本臨床検査医学会学術集会開催のご挨拶

富山大学理事・副学長
北島 勲

この度、第68回日本臨床検査医学会学術集会の集会長を仰せつかることになり、2021年11月11日(木)～14日(日)の4日間、富山県の富山国際会議場、富山市民プラザにて同学術集会の開催準備が整いました。長い本学術集会の歴史において、富山での開催は初めてであり身の引き締まる思いであります。臨床検査は、基礎科学から臨床まで多くの異分野の融合から発展してきました。富山大学では「魅力溢れるおもしろい大学」を目指しています。学問の発展には、その興味やおもしろさが根底にあることが重要であると思っています。そこで、第68回集会は「学際的臨床検査学のおもしろさを上げよう！」をテーマにさせて頂きました。

さて、参加者が直接対面で議論できる本来の状態に戻ることを期待していましたが、第5波が収束し、ワクチン接種状況等を考慮しても11月開催時における感染状況や病床の逼迫の予想がつかないため、対面形式を原則としつつWebによるリモート参加も可能とした“ハイブリット開催”とさせて頂くことになりました。特別講演、教育講演等は、現地開催としてライブ配信し、11月25日からオンデマンドで視聴できるようにしました。一般演題は集会初日からオンデマンド配信とし、各演題に対して事前に座長から質問やコメントを頂き、演者からチャットでの回答も配信いたします。コロナ禍において研究活動が制限される中で演題を提出して頂きました方々に感謝申し上げます。

本学術集会では、日常検査及び先端検査の現状分析や新しい検査法の開発研究、病態研究、さらにCOVID-19関連等、多くテーマを取り上げました。富山県出身で富山大学特任教授に就任されている田中耕一氏(2002年ノーベル化学賞受賞)から質量分析の臨床分野への拡がりや本学会のテーマであるが学際的研究開発の意義について拝聴できるものと思います。また、山本一彦理化学研究所センター長からは疾患の病因をゲノムワイドで解明する研究の拡がりについて貴重な話が伺えると思います。多くの大学では既に多くの大学で医学教育分野別認証評価を受審され認証を受けているかと思いますが、本集会では日本医学教育学会と日本医学会連合加盟学会連携フォーラム・シンポジウムと教育講演を企画しました。医学教育における臨床検査の重要性を再確認し、医学生・研修医教育に活かして頂ければ幸いです。

私たちは、万全の感染対策を実施して学会員ならびに検査関連メーカーの皆様をお迎えしたいと思います。富山では毎年11月6日からズワイガニが解禁となります。叶いましたら富山の食文化を現地で堪能して頂ける機会が持てることを切望しております。

【目次】

p.1	巻頭言
p.2	「臨床検査医学への提言」第3回
p.3	「臨床検査医学への提言」第3回、事務局からのお知らせ、2021年度年会長・監事選挙結果、第38回臨床検査専門医認定試験結果、日本臨床検査専門医会臨時総会(WEB開催)報告
p.4	2021年度第31回春季大会開催報告、教育セミナー開催報告、臨床検査振興セミナー開催報告、第59回日本臨床検査専門医会総会・講演会のお知らせ、第68回日本臨床検査医学会学術集会(富山)のご案内、2022年度第32回春季大会のお知らせ、2021年行事予定、SARS-CoV-2対策掲示板設置のお知らせ、臨床検査振興協議会 個人防護具(PPE)提供のご案内、臨床検査振興協議会「りんしょう犬さん」クリアファイルのご案内、2021年度会費振込のお願い
p.5	住所変更・所属変更に伴う事務局への通知について、会員の声
p.6	会員の声、学会のご案内、編集後記

りんしょう犬さん LINE スタンプ



りんしょう犬さんスタンプ
購入サイト

りんしょう犬さん LINE スタンプの検索方法

LINE→ウォレット→スタンプショップ

「りんしょう犬さん」を検索
検索結果→クリエイターズを選択

<https://store.line.me/stickershop/product/8679516>

※ 収益が発生した場合は全て「臨床検査」の重要性を
社会に伝える活動に使用させていただきます

「臨床検査医学へのリレー提言」第3回

医療法人社団 愛友会 上尾中央総合病院
診療部臨床検査科科长 / 感染制御室室長
日本臨床検査専門医会 名誉会員 熊坂 一成

一少し長い前書き一

前会長の登勉先生、元会長の佐守友博先生に続き、熊坂が第3回目の「臨床検査医学へのリレー提言」をさせていただく。私は日本臨床検査専門医会(本会)の会長経験者ではない。ご存命の会長経験者である先輩諸氏を差し置いての3番手とはいかかなものかと思い、一度は辞退をした。何より、私は2018年、本会の総会で、「今、臨床検査専門医・指導医に求められているもの、ある老臨床病理医(臨床検査専門医)の放言～懺悔、省察、苦言そして夢と感謝～」を講演する栄誉を与えられ、「遺言講演」のつもりで臨んだ。

また2019年、第64回中国・四国支部総会での「基調講演：わが国の臨床検査医学―栄枯盛衰そして再興に向けて―」は「遺稿」のつもりで執筆した。後輩の臨床検査専門医の方々に、老医の思いの全てを話すことができ、またお伝えしたいことは「臨床病理(現 日本臨床検査医学会誌)」に書き残せたことも辞退した理由である。

しかしJACLaP NEWS 編集主幹の後藤和人先生から「佐守先生には、次の提言を先生にお願いしたい意図があるようです」とアドバイスもあり、3番手をお引き受けした。

佐守先生は、「前会長はシャープかつジェントルに臨床検査専門医は何をすべきで何が出来ていないかを述懐されていた。同じ内容を私が書いたら、多くの会員が傷つかれ、不快感をいだかれるであろう。しかし「COVID-19の検査に対し臨床検査専門医は何をしていたのか、この疾患の臨床にどう携わってきたのか」を書きたい。」と述べられていた。

登先生、佐守先生が、ご指摘されているようにCOVID-19のパンデミックでは臨床検査専門医の存在意義、真価が問われ、本会が飛躍できるチャンスであると私も考える。

実際、当院は昨年2月のクルーズ船ダイヤモンド・プリンセス号の患者の受け入れに始まり、第5波まで中等症以上の患者を含む多数の患者の入院治療を継続している。臨床検査専門医であり感染症専門医の資格もある私はCOVID-19の外来診療の立ち上げから、検査支援体制の構築、院内感染対策さらに各診療科医師からのコンサルテーション、フェイクニュース・インフォデミック対策として最新の正しい情報提供に、今も忙殺されている。当院の臨床検査技師諸君も、コロナ禍の中、チーム医療のメンバーとしての自覚が高まり、医療技術者として成長された方が多いと自負している。熊坂が前会長のようなジェントルさを持ち合わせていないことを百もご承知である元会長のご指名であってもCOVID-19に関してはこれ以上の記述はしない。その理由は、登先生が憂慮されている医学部における臨床検査医学講座の置かれている危機的状況を打破することがCOVID-19問題より重要と思考するからである。すなわち本会教育研修委員会が2017年に実施した「医学部における臨床検査医学教育の実態調査」に回答のあった66医学部のうち講座が存在しているのは39(59%)のみであった。残りは、検査部や他の研究分野に改組されていた。臨床検査医学教育体制の基本が崩れてきているのである。

一現在、大学で臨床検査医学教育に関わられている会員の方に、そして臨床検査医学講座の教授を目指されている会員以外の方に一

まずは、「臨床検査医学講座の在り方と教授の選考にあたって、平成27年3月28日」と「大学医学部における臨床検査医学

講座の重要性、2018年7月7日」の二つの宣言を熟読していただきたい。その一部を紹介すると、前者では、「医療経済が厳しい状況下、高い学識と適切な教育能力に加えて、検査部での医療効率を考えた運営能力を発揮できる人が選ばれるべき。各大学に臨床検査医学講座の設置と、責任者として臨床検査専門医である専任教授が選考されることの重要性」が述べられている。後者では、「学生教育の観点から、将来、どのような医学の専門領域に進もうとも、臨床検査医学の知識・素養は必要不可欠なものである」ことが記されている。全国の臨床検査医学講座の運営が、この宣言通りにされていたならば、現在の苦境に陥らなかったであろう。現実には、今まで日本臨床検査医学会の会員でなかった方が教授選に立候補し、正規の臨床検査医学(臨床病理学)の教育を受けたことのない臨床検査医学のあるべき姿に疎い教授達が大多数を占める大学では、この二つの宣言が無視される人事がなされる。このような体質の大学では明日の臨床検査医学を背負うべき若い後継者が育たない負のスパイラルに墮れることは必然である。

実際、わが国の臨床検査医学の歴史は苦難の連続であった。57年前に日本の「臨床病理」を開拓されたパイオニア(所属は当時)の小酒井望先生(順天堂大学)、柴田進先生(山口医大)、石井暢先生(昭和大学)、丹羽正治先生(国立東京第二病院)らに、影山圭三先生(慶応義塾大学病理学)を加えた座談会(臨床病理学-その本質と課題、最新医学、第20巻、第4号掲載)が開催された。

その中で、影山教授は「若い連中の一般的な傾向を申し上げますと、内科の医者が内科をやめて検査室一本で通すという勇氣はないわけです。一方、基礎側からみると例えば生化学の連中が、それじゃ俺が一つ検査部に入って関係領域の仕事を全部やろうという者があれば、むしろ例外で……」と発言されていた。当時、私は高校生であった。医学生として、パイオニアの先生方のご苦勞を全く知らず、米国から帰国して間もない河合忠先生が私にとって臨床検査専門医のロールモデルであった。私は3年間の内科研修の後に、とりあえず数年間のつもりで恩師 土屋俊夫教授が開講した日本大学臨床病理学教室に移籍をした。

日本臨床病理学会に参加して、初めて河合先生のように米国でレジデントとしてmultidisciplineの臨床トレーニングを修了されたような方は極めて少数であることを知った。しかし、影山教授から例外呼ばわりされた諸先生方から直接、薫陶を受けることができたことは極めて幸運であった。

メスを捨てただけの外科医を内科医と呼ばない意味を理解され、わが国の臨床検査医学の再興に向けて心ある会員の方には、前記の拙論(臨床病理67巻7号:728-735)をお読みいただきたい。

一臨床検査医としての将来に不安のある若い先生方に一

2009年、定年まで4年を残して日本大学を退職し、上尾中央総合病院に移籍した。今まで勤務した病院の中で最悪の検査室であった。想像を超えた狭い場所に分析機器が詰め込まれ、採血室の前には患者が溢れ、清潔とは言えない採尿トイレには人の列ができていた。この現状をどうすることもできない劣悪な状態と悲観的に捉えるか、それとも今後、多くの改革を進めるべき組織に招聘された自分は幸運と楽観的に考えるかで、毎日の仕事のやりがい、楽しさが違う。学生時代から哲学者アランを崇拜する私は常に後者である。臨床検査技師は、常勤が52名、非常勤は20名であった。緊急検査以外のルーチン検査も外注する体制にありながら、技師の数を減らすリストラが実施されておらず、技師が若いことは今後の検査室のマネジメント改革をする上で好条件であると考えた。新型インフルエンザ

の勃発も追い風となり感染症専門医としてのコンサルテーションは順調に伸びたが、臨床検査専門医として院内の認知度を上げるのには若干の時間を要した。日本大学医学部で教育を受けた内科の科長以外のほとんどの医師は、臨床検査専門医を直接利用した経験はなかった。臨床検査技師も、同様にこの専門医に会うのは初めてであった。最初に私に相談を持ちかけた臨床検査技師は輸血検査担当技師であった。次いで血液検査、そして臨床化学、一般検査と順調に検査技師達から毎日の相談件数が増加した。彼ら、彼女らは、今まで相談したくても相談できる医師がいなかったのである。私が輸血検査の基本的知識と技術を習得しており、骨髄像や免疫電気泳動の判定ができ、迅速に臨床検査科から各種報告書を発行し、各診療科の医師から臨床検査に関する各種コンサルテーションを受け、クレームにも対応することを目にした臨床検査技師達から、幸いなことに短期間で私は信頼を得ることができた。臨床検査技師は、誰が「本物」で、誰が「偽物」な臨床検査医なのかを直感的に見抜くのであろう。私をプロフェッショナルな臨床検査医に育てていただいた、故 土屋俊夫先生、河野均也先生そして日本大学病院の多くの臨床検査技師の皆様へ、改めて心から感謝をした。

臨床検査医の成長と実力の維持に各分野の優れた専門医をクライアントにすることの重要性は、UCSFであっても、日本大学であっても、埼玉県の医療過疎地にあるこの私立病院であっても変わらない。臨床検査専門医としての真価が問われるのは大学病院を辞めてからである。臨床検査医を目指す若い会員の方々は日本臨床検査医学会の定めた正式のプログラムを遵守して実力をつけられれば、将来に何も憂いはない。

新しい時代の要請に応じることができる臨床検査室を創設するために、赴任直後の5月から11月にかけて土曜日の午後と日曜日を利用して計6回のワークショップ(WS)を開催した。このWSにより新病院検査室にかかる皆の「夢」がより現実的なビジョンになり、新病院検査室の設計に反映できた。検査室は以前の3倍のスペースに拡大できた。本会のGLM・WS(Good laboratory managementに関するワーク・ショップ)でのチーフプランナーとしての経験が役だった。当院で確認できたことは市中病院では臨床検査医という専門医の存在を知っている職員が、ほぼ皆無であったことと、一方、臨床検査医が病院内で本来業務を全うすることにより多職種の病院スタッフから期待される役割が飛躍的に増したことである。臨床検査医があるべき姿を追求することは何より臨床検査技師に良い影響をもたらす。第11回日本臨床検査医学会特別例会(2019年)では前川真人教授(浜松医科大学)のご厚情で当院の菊池裕子検査技術科科長(技師長と同じ)が、シンポジウム2(Good Laboratory Management 2019, プレジジョン・ラボラトリーの管理・運営)の講演者としてご指名をいただいた。

一終わりに変えて一

私が医師を目指したのは高校2年生の晩秋の深夜である。父が国立病院の副院長を退職し開業して2年目、自宅の2階から往診に向かう父を見て、父の手伝いをしなければと思った。結果において晩年、私は年老いた父のクリニックを閉鎖した。

私には孫がいる。孫の主治医は日本大学出身の女性の開業医である。ある時、孫の母親が熊坂の娘であることを知った女性医師は、「臨床病理学実習書」を取り出して、今でもこの実習書が役立っていることを娘に話してくださった。その報告を彼女から受けた私は、恩師の故 土屋俊夫先生、河合先生、河野先生の後を、土屋達行先生(横浜けいゆう病院)、細川直登先生(亀田総合病院)、上原由紀先生(聖路加国際病院)らと一緒に歩んだ、この道が正しかったことを確信できた。老医は、ただ嬉しかった。

【事務局からのお知らせ】

【会員動向】

2021年10月11日現在数798名、専門医649名

【新入会員】(敬称略)

齋藤 俊：公益財団法人東京都保健医療公社 東部地域病院
松原 侑紀：群馬大学医学部附属病院 検査部

【所属・その他変更】(敬称略)

中村 栄男：旧 名古屋大学大学院医学系研究科 臓器病態診断学
新 半田市立半田病院 病理診断科 顧問
山岸 由佳：旧 愛知医科大学病院 感染症科 / 感染制御部
新 高知大学医学部附属病院 感染症科 / 感染管理部
竹下 篤：旧 大阪医科大学 病理学教室
新 社会医療法人 彩樹 守口敬仁会病院 病理診断科
長井幸二郎：旧 徳島大学病院 検査部
新 静岡県立総合病院 腎臓内科部長
中村 丈洋：旧 香川県立保健医療大学臨床検査学科
新 川崎医科大学生理学2教室
久保田 寧：旧 佐賀大学医学部血液・腫瘍内科
新 埼玉医科大学総合医療センター 輸血部 教授

【退会】(敬称略)

岩田 仁：岐阜県総合医療センター 病理診断科

【訃報】

浮田 實先生(有功会員)：2021年2月11日ご逝去
ご冥福をお祈り申し上げます。

【2021年度年会長・監事選挙結果】

2021年度会長・監事選挙は以下の結果となりました。

1. 会長選挙結果

投票総数：317票、有効投票数：312票、無効投票数：5票
ベ谷 直人：306票(98%)
白票：6票

2. 監事選挙結果

投票総数：318票、有効投票数：313票、無効投票数：5票
東條 尚子：307票
白票：6票

【第38回臨床検査専門医認定試験結果】

2021年8月22日(日)に、日本臨床検査医学会主催の第38回臨床検査専門医認定試験が東京医科歯科大学で行われ、7名(うち日本臨床検査専門医会会員4名)が合格されました。合格おめでとうございます。今後のご活躍を期待します。(50音順 / 敬称略)

越中 秀和、笠松 悠、國崎 祐哉、菅原 明、
町野 智子、皆川 智子、森兼 啓太

なお、同日に第1回日本専門医機構基本領域臨床検査専門医認定試験も併せて実施され、3名が学会の審査としては合格であると判定しました。

【日本臨床検査専門医会臨時総会(WEB開催)報告】

10月4日(土)に臨時総会がWEBにて開催されました。当日は72名がWEB参加、郵送による事前の議決権行使は257通、委任状は82通の提出がありました。

<審議事項>

第一号議案：日本臨床検査専門医会の一般社団法人化について

第一号議案は、承認されました。

【2021年度第31回春季大会開催報告】

本年度春季大会(植木重治大会長・秋田大学)は、5月21日(金)～22日(土)に全面WEB形式で開催されました。200名あまり(7名の学生参加含む)の参加がありました。

【教育セミナー開催報告】

本年度はWEBセミナー形式で開催されました。36名の受講生が、配信期間中、講義動画を視聴しました。

【臨床検査振興セミナー開催報告】

2021年7月16日(金)14:30よりWEBにて開催されました。

「(薬事審査に関わる)体外診断用医薬品の臨床性能試験ガイドラインについて」(内山浩之講師:日本臨床検査薬協会法規委員会委員長・日水製薬株式会社 信頼性保証部 部長)、「外国人患者とは?検査時のポイントを考える」(山田秀臣講師:東京大学医学部附属病院 国際診療部副部長)の講演があり、賛助会員、会員合わせて約180名の参加がありました。

【第59回日本臨床検査専門医会総会・講演会のお知らせ】

第59回日本臨床検査専門医会総会・講演会は第68回日本臨床検査医学会学術集会(富山)時に以下の日程で開催予定です。

開催日時:2021年11月11日(木) 総会 13:00～13:30
講演会 13:30～14:30

会場:富山国際会議場・ライブ配信

講演会:テーマ「日本臨床検査専門医会として考える
女性医師支援の方向性」

司会:谷 直人会長

演者:上原 由紀(女性医師支援ワーキンググループ
リーダー/聖路加国際病院)
五十嵐 岳(女性医師支援ワーキンググループサブ
リーダー/聖マリアンナ医科大学)

総会・講演会は現地参加とWEB参加どちらも可能、ライブ配信の予定。

専門医共通講習B(両立支援)1単位に認定されています。

【第68回日本臨床検査医学会学術集会(富山)のご案内】

第68回日本臨床検査医学会 学術集会

会期:2021年11月11日(木)～14日(日)

会場:富山国際会議場・富山市民プラザ

テーマ:学際的臨床検査医学のおもしろさを広げよう!

会長:北島 勲(富山大学:理事、副学長)

副会長:仁井見英樹(富山大学医学部臨床分子病態検査学講座)

・教育研修委員会では、日本臨床検査医学会教育委員会との共催シンポジウムを、以下の通り予定しています。

1)テーマ:「臨床検査の社会貢献」

2)座長:東田 修二、涌井 昌俊

3)演者:井戸健太郎(大阪みなと中央病院)
朝比奈 彩(静岡赤十字病院検査部副部長)
眞鍋 明広(富山市民病院診療部臨床検査科長)
三宅 紀子(つばめクリニック院長)

・広報委員会では、日本臨床検査医学会ワークライフバランス委員会、教育委員会と合同でワークショップを開催予定です。

【2022年度第32回春季大会のお知らせ】

大会長:橋口 照人(鹿児島大学大学院 歯学総合研究科
血管代謝病態解析学分野 教授)

テーマ:次世代バイオマーカーへの挑戦

期日:2022年(令和4年)5月20日(金)、5月21日(土)

会場:TKP ガーデンシティ 鹿児島中央(ハイブリッドの場合)

開催形式:ハイブリッドまたは完全WEB

【2021年行事予定】

2021年の日本臨床検査専門医会の行事予定をお知らせします。

開催日時、場所の変更が生じる場合があります。変更があり次第JACLaP WIRE、メール等でお知らせします。その都度ご確認ください。

2021年

11月～12月:臨床検査の日を中心として全国検査と健康展
11月11日(木)

～14日(日):第68回日本臨床検査医学会学術集会(富山)

11月11日(木):第2回全国幹事会、第59回日本臨床検査
専門医会総会・講演会

12月18日(土):第3回常任幹事会

【SARS-CoV-2対策掲示板設置のお知らせ】

(広報委員会より)

専門医会会員ネットワーク内にSARS-CoV-2対策掲示板を設置しました。PCRの技術関連、精度管理、検査者のPPE(個人防護具)等、内容は問いません。検査管理体制の情報共有やそれらに関する疑問等、みなさまのディスカッションの場としてご利用ください。

SARS-CoV-2対策掲示板URL:<https://bbs.jaclap.org/virus/index.cgi>
(閲覧にはPasswordが必要です。閲覧をご希望の方は事務局までメールでご連絡ください)

【臨床検査振興協議会 個人防護具(PPE)提供のご案内】

9月27日に会員宛てメールでご案内しましたが、PPEの種類によっては在庫が少なく、ご希望に沿えませんでした。お詫びいたします。

N95マスク、白衣、つなぎについては在庫があります。11月末まで申し込みを受け付けておりますので、ご希望がありましたら本会事務局までお申し込みください。

【臨床検査振興協議会「りんしょう犬さん」

クリアファイルのご案内】

本会が会員として参加する臨床検査振興協議会では「りんしょう犬さん」をモチーフとしたクリアファイルを製作しております。本会会員の先生方には教育、啓発、宣伝活動等に無料でご利用いただけますので、本会事務局までご請求下さい。

1回の請求でA4サイズで30枚またはA5サイズで50～60枚の送付が可能です。

【2021年度会費振込のお願い】

2021年度の会費の納入がまだお済でない方は振込をお願い致します。

2022年度に専門医会が法人化するのに伴い、12月末で会計を締める必要があります。2021年までの会費が未納の方は12月中旬に振り込みをお願いします。

2021年度年会費:10,000円

(2021年1月1日現在、70歳以上の方は5,000円)

銀行名:ゆうちょ銀行

金融機関コード:9900

店番:019 店名:〇一九店(ゼロイチキユウ店)

預金種目:当座 口座番号:0020509

口座名:日本臨床検査専門医会事務局

ご自身の振込状況が不明な先生は、事務局まで E-mail または FAX でお問い合わせ下さい。過去 2 年間会費を滞納している先生には、Lab CP、JACLaP NEWS、要覧の発送を停止いたします。悪しからずご了承ください。

【住所変更・所属変更に伴う事務局への通知について】

住所・所属の変更にもなって定期刊行物、JACLaP WIRE、電子メールなどの連絡が届かなくなる会員がいます。勤務先、住所および E-mail address 等の変更がありましたら必ず事務局までお知らせください。変更事項はホームページから、または E-mail、FAX でお願いいたします。

<連絡先>

日本臨床検査専門医会 事務局(水・土日祝祭日は休業日)
電話：03-3864-0804 FAX：03-5823-4110
メールアドレス：senmon-i@jacplp.org

【会員の声】

消化器内視鏡・遺伝性腫瘍診療に従事する臨床検査専門医

第 67 回日本臨床検査医学会学術集会で、日本臨床検査専門医会共催シンポジウム「臨床検査専門医の近未来 - 求められる独自性と連携性 -」が開催され、演者として参加させていただいた。発表を終えた今、消化器内視鏡・遺伝性腫瘍診療に従事する臨床検査専門医として感じていることを書かせていただきたい。

消化器内科医として診療していると、消化器内視鏡検査所見を契機に遺伝性腫瘍が強く疑われる場面は意外に遭遇する。胃底腺ポリープから疑われた家族性大腸腺腫症、多発した褪色调の小病変から疑われた遺伝性びまん性胃がんなどはその一例である。また、特定の遺伝性消化器腫瘍症候群と診断されると、スクリーニングとしてのみならずサーベイランスとしての消化器内視鏡検査も二次予防に重要となる。さらに、現在の消化器内視鏡検査では全消化管を観察することが可能であるのみならず、生検も実施可能であるため、病理検査室スタッフと消化器内視鏡医が連携し、消化器内視鏡検査所見から得られる表現型の情報と、病理検査室スタッフにより得られる生検検体・手術検体の腫瘍部あるいは非腫瘍部(背景粘膜など)の病理組織型あるいは免疫組織化学所見といった情報が共有され、マクロとしての表現型とマイクロとしての表現型を対比することができる。このような状況の中、日本消化器内視鏡学会が臨床検査を含む 6 領域の基本領域のサブスペシャリティ領域として日本専門医機構に正式認定されたことは、消化器内視鏡専門医である臨床検査専門医としては大変面白い話題である。

消化器内視鏡検査によって認められた所見が特定の遺伝性腫瘍症候群に特徴的なものか否か意識していないと、たとえ所見をとらえても見逃すかもしれない。そこで大切なのが消化器内視鏡診療の立場から患者や病気をみるのみならず、臨床遺伝学的な立場からも患者や家族をみることでであると実感している。内視鏡所見や病理組織検査などの情報をもとにどのような病気が考えられるのかを挙げ、臨床的に候補となる疾患を絞り込むために既往歴や家族歴を聴取することができるかどうかは大変重要である。そして、消化器内科医かつ臨床遺伝医として遺伝カウンセラーと連携し、消化器内科外来や家族性消化器腫瘍外来での診察で内視鏡検査の結果を説明する際に家族歴の聴取による臨床遺伝学的評価を詳細に行うこと、患者のご希望に応じて、適宜遺伝カウンセリングで、病気と遺伝についてじっくり説明し、クライアントが抱える悩みに寄り添い、遺伝学的検査を受ける・受けないといった意思決定の支援につながっていくであろう。

遺伝カウンセリングのなかで、クライアントが遺伝性腫瘍症候群の遺伝学的検査をご希望される場面は多い。その場合、これまでに評価した表現型や家族歴から行われうる遺伝学的検査の種類や特徴、検査を受けてわかることや限界などを適切にきちんと情報提供すること、診療の用に供する検査として実施できない対象遺伝子の遺伝学的検査についても、状況に応じて研究にご協力いただく形で遺伝学的解析を実施していただくことが可能であるが、有用性と限界点をきちんと説明できることが必須であり、ここはまさに臨床検査医が患者や家族と対面して遺伝子診療する際の出番ではないかと考えている。これからも「消化器内視鏡・遺伝性腫瘍診療に従事する臨床検査専門医」であることを強みに精進していきたいが、正直この立場だと臨床検査専門医の役割を果たしているのかわかるとも不安で揺れる日々を過ごしているのもまた事実である。

(浜松医科大学医学部臨床検査医学 岩泉守哉)

第 67 回日本臨床検査医学会

「臨床検査専門医会共催シンポジウム 臨床検査専門医の近未来 - 求められる独自性と連携性 -」

【医療関係者と検査のかけ橋として機能する臨床検査医になるためには?】

JACLaP NEWS を御覧頂いている皆様、こんにちは!先日、臨床検査専門医の 1 度目更新が無事に終わった聖マリアンナ医科大学の五十嵐と申します。さて、今回は 2020 年 11 月に盛岡で開催された第 67 回日本臨床検査医学会において「臨床検査専門医会共催シンポジウム 臨床検査専門医の近未来 - 求められる独自性と連携性 -」が開催、同会にて座長を務められた田部陽子先生(順天堂大学)よりご推薦いただいて発表させていただきましたので、簡単にご報告させていただきます。

前述したように自分は臨床検査専門医となってまだ 6 年目ですが、自分が理想とする臨床検査専門医は“医療関係者と検査のかけ橋”“検査結果の翻訳者”になるべき存在と考えています。臨床検査専門医に関わる主な医療関係者は、1. 臨床他科医師、2. 臨床検査技師、3. 医学部生の 3 つに分けることができます。では、どのようなやり方をすると彼らと“検査のかけ橋”として頼りにされるようになるのか、自分が気をつけている点をまとめてみました。

1. 臨床他科医師との連携

《気をつけている point》

- ▶ “オーダーの受け方”で検査の質が変わる
- ▶ 相手の目的に応じた“オーダーメイド検査”を
- ▶ 少しだけでも“相手の期待を上回る”ような仕事

他科医師からの信頼を得るためには精度の高い結果の提供はもちろんのこと、さらに相手が期待しているレベルを少しでも上回る対応を提供できれば更に良いと考えます。その対応を実現するためにはオーダー側がどのような情報を欲しているのかを事前に把握しておくことが重要と考えているので、自分は検査を行う前にオーダー側とコミュニケーションをとってから検査をするようにしています。そのような結果を少しずつ積み重ねていくことにより、他科医師からの信頼が徐々にあがっていくのではないのでしょうか。

2. 臨床検査技師との連携

《気をつけている point》

- ▶ 話す機会を作り“多くのコミュニケーション”をとる
- ▶ お互いの“専門性を尊重”した協体制度を築く
- ▶ 検査に関して学んでいれば、自分で行えなくても技師に“的確な指示”をだせるようになる

臨床検査専門医の先生方のなかには臨床検査技師さん達とどのような関わり方をするのが良いか悩まれている方がい

らっしゃるのではないのでしょうか。現在、臨床検査は多様化・高度化している状況であり、これからはもっと幅広い分野において検査業務を行っていかなくてはならないと予想されます。そこで「臨床検査専門医と技師は、どのようにして助け合ふべきか?」というテーマで勉強会を開催、臨床検査技師さん40名から146の御意見をいただき、それらをKJ法でまとめてみました。結果、5つの意見に集約できたのですが、うち3つには「コミュニケーション不足」が要因としてあがりました。これからはコミュニケーションをとることによって距離を縮め、お互いが遠慮せずに依頼できるような関係を構築することが必要ではないかと考え、技師さんからお誘いいただいた会にはできるだけ参加するようにしています。

3. 医学生との連携

《気をつけている point》

- ▶ 現時点でも様々なポテンシャルを持つ子がいる
- ▶ SNS を上手に使う
- ▶ 今は学生でもすぐに医師になる

医学分野に限定した場合、医師が医学生と話して得られる事は少ないと思いますが、医学以外の分野の話をする場合、医師が医学生より優れている…とは限りませんよね。当大学では研究室配属という講義があり、医学生と1ヶ月ともに研究を行う期間があります。その際、宇宙に興味がある医学生が当講座に来てくれたのですが、彼の提案で-6° HeadDown Tiltにて微小重力環境が再現可能なことを知り、自分だけでは思いつかない研究を行うことができました。このように、医学生と関わることは自分の視野を広げることにつながり、重要な戦力になり得ると考えています。

みなさん御存知の通り、臨床検査医学は守備範囲が非常に広く、今後更に範囲が拡大していくのも間違いありません。そして、その全範囲を臨床検査専門医のみでカバーするのは正直困難と思われれます。なので、他科医師や臨床検査技師と連携しながら検査部を運営し、医学生とも連携しながら臨床検査医学に興味をもつ若手医師を少しずつ増やしていくことが重要ではないのでしょうか。このような形を実現できると“医療関係者と検査のかけ橋”“検査結果の翻訳者”として頼られる臨床検査専門医になれるように思います。以上が理想ではありますが未だ浅学非才の未熟者ですので、今後とも皆様からのご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

(聖マリアンナ医科大学 五十嵐岳)

11月11日を記念日とする民間企業との合同PRを開始しました!

日本臨床検査医学会 広報委員会委員長 木村 聡

日本臨床検査医学会 広報委員会副委員長 五十嵐岳

みなさま既に御存知と思いますが、11月11日は「臨床検査の日」です。ですが、世間一般における臨床検査業界ならびに「臨床検査の日」の認知度が高いとはいえず、一般社会

にむけて両者を広く浸透させていく必要があります。そのためには医療業界のみに拘ることなく、何らかの形で一般社会との接点を持つことが重要です。このたび日本臨床検査医学会・専門医会 広報委員会は臨床検査振興協議会と共同で「民間企業と協力した11月11日記念日PR」を開始しました。

11月11日の記念日というとポッキー(江崎グリコ)が非常に強いインパクトをもっておりますが、「11月11日は日本で3番目に記念日が多い日」であり、臨床検査以外にも同日を記念日としている団体が多数存在します。これより「11月11日を記念日とする団体」で集まり、「ポッキー以外にも11月11日を記念日とする団体がある」というPRを通じて各団体の存在を広く知っていただくことが目的としました。

現在行っているのは下記3つの活動となります。

1. 「11月11日記念日合同 Twitter」の開設

<https://twitter.com/1111tsunagi>

2. Twitter内にて「11月11日記念日ロゴ制作コンペ」開催

Twitter内イベントとして「11月11日記念日ロゴ制作コンペ」を現在開催中です

3. PR times (PR会社)を用いたPR

上記イベントをPRをPR会社さんに依頼、簡単な動画も作成いただきました

<https://www.fnn.jp/articles/-/242140>

よろしければ「Twitterのフォロー、ロゴ制作コンペへの御参加、周囲の方々へのお知らせ」をお願いできますと幸いです。御協力のほど、宜しくお願い申し上げます。

- 臨床検査振興協議会の「りんしょう犬さん」のLINEスタンプ購入サイトは、表紙目次下のQRコードを読み取ってください。

学会のご案内

第61回日本臨床化学会年次学術集会

会 期：2021年11月5日(金)～11月7日(日)

会 場：福岡国際会議場(福岡県福岡市)

集 会 長：康 東天(九州大学大学院医学研究院)

副集会長：内海 健(九州大学大学院医学研究院)

テ ー マ：臨床化学の未来図

【編集後記】

今年一年138号から今号140号まで計18ページの紙面を発行できたことに、入稿頂いた全ての執筆者に感謝いたします。138号より、「臨床検査医学への提言」という形で、登壇先生、佐守友博先生、熊坂一成先生へトリレー企画をさせて頂きました。今後は、臨床検査関連学会の案内も積極的にしてまいりますので、JACLaP NEWへの寄稿をよろしくお願い申し上げます。

(編集主幹 九州大学病院検査部 後藤和人)

日本臨床検査専門医会

会 長：谷直人、副会長：菊池春人(法人化検討WG)、村上純子(女性医師支援WG)

常任幹事：東田修二(庶務・会計幹事)、五十嵐岳(広報委員会委員長)、田部陽子(教育研修委員会委員長)、東條尚子(資格審査・会則改定委員会委員長)、福地邦彦(情報・出版委員会委員長)、増田亜希子(ネットワーク運営委員会委員長)、三井田孝(保険点数委員会委員長)、横崎典哉(渉外委員会委員長)

監 事：土屋達行、古川泰司

全国幹事：伊藤弘康、稲葉 亨、植木重治、大西宏明、上岡樹生、北中 明、木村 聡、木村秀樹、下 正宗、千葉泰彦、中島 収、中村聡子、藤井 聡、松井啓隆、松野容子、山崎悦子、山崎正晴

情報・出版委員会：

委員長：福地邦彦

委 員：五十嵐岳、出居 真由美、後藤 和人、信岡 祐彦、盛田 俊介、吉田 博

日本臨床検査専門医会事務局

〒101-0027 東京都千代田区神田平河町1番地 第3東ビル908号

TEL：03-3864-0804 FAX：03-5823-4110 E-mail：senmon-i@jacpl.org